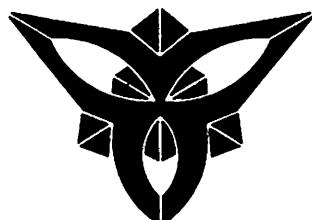
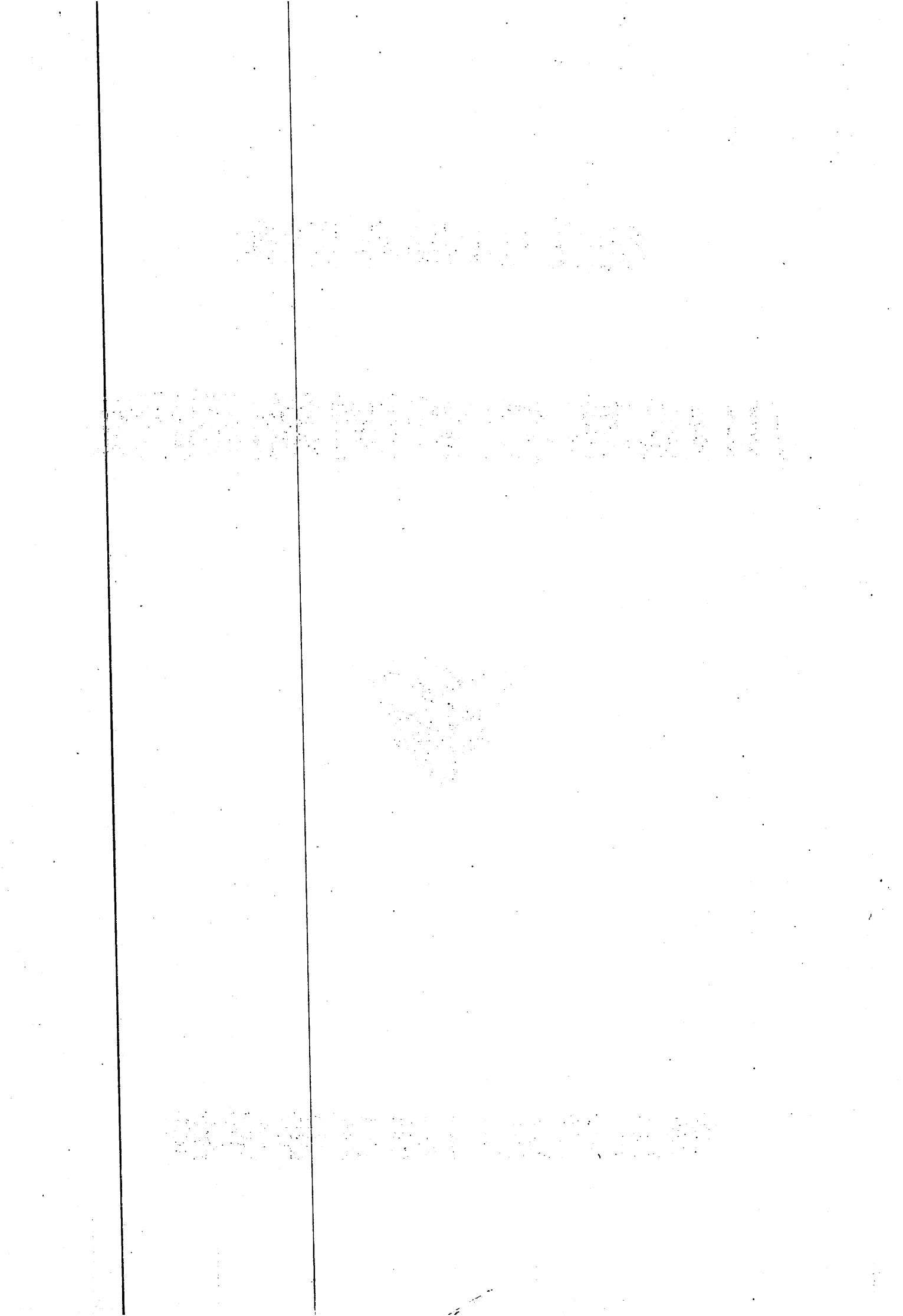


創立100周年記念

川越高校新聞縮刷版



埼玉県立川越高等学校



挨拶・祝辞

百年を振り返り、
百年を見通す。

縮刷版刊行に際して

県立川越高校創立100周年記念事業実行委員会
委員長

渋谷 健

川越高等学校創立100周年記念事業の一環として、「川越高校新聞縮刷版」が刊行されますことを大変嬉しく思います。

この100年を振り返りますと、明治・大正・昭和・平成と、幾多の戦争や経済変動等々の社会情勢に影響されながらも、地域社会の信頼に応え、連綿として着実に発展し続けてきた足跡が見られます。その結果、学力も向上し、進学実績も上昇するなど顕著な実績を残し、いまや県下はもとより全国有数の進学校としての地位を固めるに至りました。その後半の50年間、つまり学制改革に伴い、新制高等学校としてスタートした昭和23年以来発刊された川高新聞を網羅し、改めて川高生の歩んだ姿を紙面を通して検証しようという企画であります。特に第二次世界大戦終結直後の混乱期の生徒が、また、インフレと闘いバブル経済に翻弄された時代の生徒が、そして最近の国際緊張、経済不況の下に学ぶ生徒が、果たしてその時々に何を考え、どう対応してきたかが窺え、きっと同窓各位が、それぞれ在学した時代を彷彿とさせ懐かしく思われたり、時代と共に移り行く母校に驚きと興味を抱いたりして読んでいただける貴重な資料だと信じます。また、同時に最近の高校生の思考、行動等も紙面から推測され、若者の理解に役立つとも考えますので、ご活用願えれば幸甚に存じます。

さて、残念ながらこの縮刷版に載らない前半、いわゆる旧制中学校時代の50年間は、国家の動きに翻弄され、学業もままならず、中には、志半ばで倒れた方々も多く、文字通り戦争に明け暮れして学校生活を送られた時代がありました。どうしても、その間の学校新聞などが見あたらず、刊行できませんが、同時発行の100周年記念誌にその時代の流れが載っていますので、ご覧いただきたいと思います。

川越高校新聞発刊当初は、学校の出来事を伝達する手段の一つとして機能していました。しかし、何時しかそれだけでなく世相を反映し、世の中の動きに敏感に反応する内容が多く掲載されるようになりました。そして、直接、生徒の目を通して時代を斬り、社会の動きに迫る記事も増えてきたようになります。「年々歳々花相似たり。歳々年々人同じからず」（劉廷芝）とか。学校行事や学校生活は外面向的にはほとんど変化なく、同じことの繰り返しに見えますが、生徒の目から見て、古き慣習に単に従うこと潔しとせず、常に新しさを追求し、しきたりを脱皮していくなどの積極性を發揮して、古き時代の人間には想像できないような思いきった発想の転換をはかつてることを痛感します。その意味からも、この縮刷版が参考となり、頭のりフレッシュに役立つように思います。

ぜひ、多くの方々に座右に置いていただき、戦後の川越高校の変化や、校内の出来事の赤裸々の姿を眺め、住時を想起し、100周年の思い出にしていただければ幸いに存じます。

「川越高校新聞縮刷版」の 発行を祝う

前校長（1997年～1998年在職）

大沢 幸夫

「川越高校新聞縮刷版」が関係者のご尽力により発行されることは、誠に喜ばしく意義深いことであり、心からのお祝いと御礼を申し上げます。本書はそれぞれの時代の生徒の手によって書かれた生徒の眼を通しての本校の戦後の歴史であり、「100周年記念誌」とは一味異なった趣のあるものとして、私もその刊行を心待ちにしておりました。

「川越高校新聞」の第一号は昭和25年7月28日に発行され、以来、平成11年3月6日の第228号まで、當々とその発行が続けられたことを思うとき、それぞれの時代に発行に関わられた顧問の先生方、生徒諸君のひたむきな努力と新聞発行に寄せる熱き思い、その御苦労に心から敬意を表したいと存じます。

私は常々学校新聞の発行を楽しみにしている者の一人ですが、ここで学校新聞のあり方について考えてみたいと思います。

学校新聞も他の新聞一般と同様に様々な情報の報道が主眼になります。新聞の基本的な性質は報道性にありますので、より新しい価値のある情報を、より早く、詳細に、正確に、より広く伝達することは、新聞であるからには当然のことです。

次に、学校新聞の独特な性格は「学校新聞は学校の歴史をつづる」ということです。その点からは、学校新聞で報道される情報は速報性よりも記録性を重視することが大切です。この記録性重視が学校新聞そのものの方

ではないでしょうか。学校新聞は毎号学校の歴史をつづっているのです。記録性は学校新聞の生命です。

さらに、学校新聞のもう一つの重要な性格として指導性があります。それぞれの報道が、何かどこかに読者の心を打つものがあつて欲しいものです。昔から「新聞は社会の木鐸である」と言わされてきました。新聞は人の心を打つ道具と言えましょう。「最近の学校新聞は、体裁や技術はすぐれてきたが、俗にいうパンチがきいていない」とか、「ファイトがない、だから誰も読まない」などと言われるのは、その点に問題があるのではないか。だれかが言わねばならない問題、だれかがとりあげて公開の場に持ち出すのをみんなが待っているような問題を的確にキヤツチし、適切に報道する。このようなニュースがあらわれたとき、個々ばらばらに切り離されて、あれこれ一人で心配していた読者の眼と心が、一つの焦点に集められ、共通の関心事によつつながれる。新聞によつてみんなが結びつけられたのです。

以上学校新聞作りへの私の願いを述べましたが、数々の栄光に輝いた本校学校新聞が、その高いレベルを維持し、多くの読者からその発行が待ち望まれるような新聞として、今後もありつづけて欲しいと願つております。

目 次

挨拶

縮刷版刊行に際して

渋谷 健 3

「川越高校新聞縮刷版」の発行を祝う

県立川越高校創立一〇〇周年記念事業実行委員会委員長

大沢 幸夫 4

新聞部の歴史

前校長（一九九七～一九九八年在職）

一九五〇年代

新聞部のできるところ

小泉 功 7

教諭（一九五〇年～一九八六年在職）

一九五〇年一号～一九五九年四十八号

8

一九六〇年代

私の川高生活

牛窪 熱 126

（高校十五回）

一九六〇年四十九号～一九六九年九十二号

127

一九七〇年代

私の思い出

小林一洋

（昭和六十一年卒）

237

八〇年から九〇年へ

須藤 哲

(平成二年卒)

一九七〇年九十三号～一九七九年百三十二号

238

一九八〇年代

「Y先生」のこと

小原 徹

(平成元年卒)

一九八〇年百三十三号～一九八九年百八十二号

320

一九九〇年代

川越高校新聞部の思い出

小原 聰

(平成三年卒)

過去へのメッセージ

佐野 篤

(平成七年卒)

新聞部の真実

荒川仁雄

(平成七年卒)

一九九〇年百八十三号～一九九八年二百一十六号

450

448

448

447

資料

編集後記

(1)
(17)

新聞部の歴史

1950年代

1950年1号～1959年48号

1960年代

1960年49号～1969年92号

1970年代

1970年93号～1979年132号

1980年代

1980年133号～1989年182号

1990年代

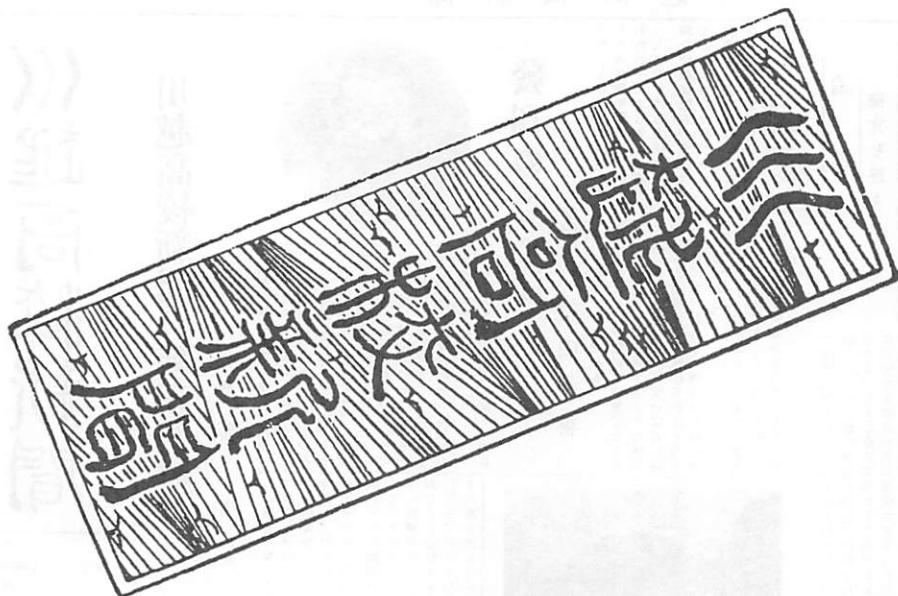
1990年183号～1998年226号

新聞部の歴史

新聞部のできること

小泉 功

一九五〇年代



私が川越高校に社会科の教諭として就任したのは、一九五〇年（昭和二十五）の四月であつた。担当した科目は、世界史・日本史・時事問題であった。週二時間の時事問題は、教科書・テキストもなく、主に新聞の解説であつた。開校以来の二階建の木造校舎で、床に透き間があり、二階で水を零すと、一階にもろに垂れる状態の老朽化した教室であつた。時事問題の授業で特に関心が深かつたのは六月二十五日の朝鮮戦争の勃発であつた。

この戦争は、北緯三十八度線における韓国と北朝鮮の武力衝突ではじまつた。それが七月初旬には、北朝鮮軍が釜山近くまで進出し韓国側は全く劣勢で、韓国の敗北は決定的な感があつた。ところが七月七日の七夕の日にアメリカは在日米軍を国際連合軍として投入し、国連軍最高司令官にはマッカーサーが任命され、九月十五日には国連軍が仁川に上陸した。十月には、国連軍は巻き返しをはかり、三十八度線を突破して、平壌に迫る勢いであつた。連合軍の後押しにより、今度は韓国の勝利が決定的に思われた。しかし、そうはいかなかつた。時局はめまぐるしく変転する。十月二十五日になると、中国が北朝鮮救援のため志願兵である中国人民義勇軍二十万人を投入した。彭徳懷に指揮された野戦軍の精銳は三十八度線付近まで国連軍を押し返し、膠着状態が続いた。こうして、五十一年七月に

休戦談が開始され、五十三年に休戦協定調印で終結した。朝鮮戦争は、日本に米国による特需によって好景気をもたらし、急激な経済発展のきっかけとなつた。

国内問題では、一九四二年（昭和二十四）の七月①下山事件②三鷹事件、八月に③松川事件が続いて起り新聞のトップニュースとなつてはいた。①は常磐線綾瀬駅付近で国鉄總裁下山定則が轢死係として発足された事件で、国鉄当局と労働組合との対立中で、労働組合、または共産党のしわざの風説が流され、②・③ともに戦後の労働組合運動に動搖をあたえた。後年②は最高裁で竹内被告の单独犯行で死刑・他は無罪、③は最高裁で全員無罪となつた。

こうした事件を時事問題の授業で扱つたができるだけ客観的に取扱い解説を加えたつもりである。生徒諸君の中には、これらの社会問題と新憲法との関係を追求し、平和憲法と両軍備・言論・学園の自由などの問題を提起してきた。

これらが動機となつて新聞部をつくることとなつたと思われる。その中心的メンバーは村山・大河内・神山・畠山の生徒諸君であつた。小生にも度々相談があつて、職員会議もすんなり通り顧問には佐々木信治先生が当たることになつた。何分にも古い話題であり、意を尽くすことができなかつた。了承された

國體への道近し

籠球部

今まで何時も決勝準決勝で惜敗していなかった籠球部も今年こそは國體の夢を実現した

いと日の猛練習をつんでいた

が去る六月の學

徒綜合體育大會

に強敵不動岡浦

と決勝決勝

和を接戦の末破

つて優勝した國體

への希望を一段と強めた。今そ

と決勝を拾つて

見ると

一回戦

25 / 10

児玉高

二回戦

17 / 15

川口高

準決勝

28 / 29

不動高

決勝

25 / 25

14でこれをぶり

切つた

浦和高

前半好

調にマンハンド

の決勝を勝ち

と大きくリード

したが後半浦和

の追撃ものすご

く一點を争う姿

春の大會には惜しから

と大きくなり見てい

るもののをはらはらさせたが遂に10

16とおさへて優勝の榮冠を勝ち

得た。

以上の試合を見て感じた事は上位

チームの實力の差がはなはだ少な

いと云う事である。

先生の御指導の賜と主將は語つて

いる。

「一步一步着実に」の部のモット

ーを生かして、來たるべき大会に

突進してもらいたい。又この頃は

東高校選手権開催を

見ると

八百米競走

(平岡・橋本・中島・葉

二回戦

17 / 15

川口高

準決勝

28 / 29

不動高

決勝

25 / 25

14でこれをぶり

切つた

浦和高

前半好

調にマンハンド

の決勝を勝ち

と大きくなり見てい

るもののをはらはらさせたが遂に10

16とおさへて優勝の榮冠を勝ち

得た。

以上の試合を見て感じた事は上位

チームの實力の差がはなはだ少な

いと云う事である。

先生の御指導の賜と主將は語つて

いる。

「一步一步着実に」の部のモット

ーを生かして、來たるべき大会に

突進してもらいたい。又この頃は

東高校選手権開催を

見ると

八百米競走

(平岡・橋本・中島・葉

二回戦

17 / 15

川口高

準決勝

28 / 29

不動高

決勝

25 / 25

14でこれをぶり

切つた

浦和高

前半好

調にマンハンド

の決勝を勝ち

と大きくなり見てい

るもののをはらはらさせたが遂に10

16とおさへて優勝の榮冠を勝ち

得た。

以上の試合を見て感じた事は上位

チームの實力の差がはなはだ少な

いと云う事である。

先生の御指導の賜と主將は語つて

いる。

「一步一步着実に」の部のモット

ーを生かして、來たるべき大会に

突進してもらいたい。又この頃は

東高校選手権開催を

見ると

八百米競走

(平岡・橋本・中島・葉

二回戦

17 / 15

川口高

準決勝

28 / 29

不動高

決勝

25 / 25

14でこれをぶり

切つた

浦和高

前半好

調にマンハンド

の決勝を勝ち

と大きくなり見てい

るもののをはらはらさせたが遂に10

16とおさへて優勝の榮冠を勝ち

得た。

以上の試合を見て感じた事は上位

チームの實力の差がはなはだ少な

いと云う事である。

先生の御指導の賜と主將は語つて

いる。

「一步一步着実に」の部のモット

ーを生かして、來たるべき大会に

突進してもらいたい。又この頃は

東高校選手権開催を

見ると

八百米競走

(平岡・橋本・中島・葉

二回戦

17 / 15

川口高

準決勝

28 / 29

不動高

決勝

25 / 25

14でこれをぶり

切つた

浦和高

前半好

調にマンハンド

の決勝を勝ち

と大きくなり見てい

るもののをはらはらさせたが遂に10

16とおさへて優勝の榮冠を勝ち

得た。

以上の試合を見て感じた事は上位

チームの實力の差がはなはだ少な

いと云う事である。

先生の御指導の賜と主將は語つて

いる。

「一步一步着実に」の部のモット

ーを生かして、來たるべき大会に

突進してもらいたい。又この頃は

東高校選手権開催を

見ると

八百米競走

(平岡・橋本・中島・葉

二回戦

17 / 15

川口高

準決勝

28 / 29

不動高

決勝

25 / 25

14でこれをぶり

切つた

浦和高

前半好

調にマンハンド

の決勝を勝ち

と大きくなり見てい

るもののをはらはらさせたが遂に10

16とおさへて優勝の榮冠を勝ち

得た。

以上の試合を見て感じた事は上位

チームの實力の差がはなはだ少な

いと云う事である。

先生の御指導の賜と主將は語つて

いる。

「一步一步着実に」の部のモット

ーを生かして、來たるべき大会に

突進してもらいたい。又この頃は

東高校選手権開催を

見ると

八百米競走

(平岡・橋本・中島・葉

二回戦

17 / 15

川口高

準決勝

28 / 29

不動高

決勝

25 / 25

14でこれをぶり

切つた

浦和高

前半好

調にマンハンド

の決勝を勝ち

と大きくなり見てい

るもののをはらはらさせたが遂に10

16とおさへて優勝の榮冠を勝ち

得た。

以上の試合を見て感じた事は上位

チームの實力の差がはなはだ少な

いと云う事である。

先生の御指導の賜と主將は語つて

いる。

「一步一步着実に」の部のモット

ーを生かして、來たるべき大会に

突進してもらいたい。又この頃は

東高校選手権開催を

見ると

八百米競走

(平岡・橋本・中島・葉

二回戦

17 / 15

川口高

準決勝

28 / 29

不動高

決勝

25 / 25

14でこれをぶり

切つた

浦和高

前半好

調にマンハンド

の決勝を勝ち

と大きくなり見てい

るもののをはらはらさせたが遂に10

16とおさへて優勝の榮冠を勝ち

得た。

以上の試合を見て感じた事は上位

チームの實力の差がはなはだ少な

いと云う事である。

先生の御指導の賜と主將は語つて

いる。

「一步一步着実に」の部のモット

ーを生かして、來たるべき大会に

突進してもらいたい。又この頃は

東高校選手権開催を

見ると

八百米競走

(平岡・橋本・中島・葉

二回戦

17 / 15

川口高

準決勝

28 / 29

不動高

日本最古の木器發見

郷土部平方發掘に活躍

所行越新立須山印川

輔善会

大利所

刷刷

那村

川

新立

須山

印

どうなる校舍新築 鉄キンか木造か

改築費二千萬圓鐵筋三階白である。十年をその壽命とす
と云われた本校舎が改築され、木造の新校舎が完成した。
一部は已て使用不能にえくなつてゐる。特に雨天休業場の破損はほんば
しく倒壊の一歩手前に立到つてゐる。これら諸情勢により改築の
去る四月頃より叫ばれて來たが年度それが具体的に決定し同時に在校
生一人につき二千圓の寄附が決定された。

改築費二千萬圓鐵筋三階白である。十年をその壽命とす
と云われた本校舎が改築され、木造の新校舎が完成した。
二階に内定した(四月)と云ふと、高もとと鐵筋が改築され
る。廻りもとと自己に浦高熊
萬とよびと鐵筋が改築され
れ次は本校と思つた所が
火災焼損の不勝間に先に
とらへ同様に基礎工
事を終り鐵筋の素材が集
り、餘々と本校のようやく改
築決定の期報が耳に入つ
たと思つたの市内の間聲
ある、建築は未だ云う事で
か鐵筋が良いから明
る木造よりも半永久的な鐵筋の題となりつゝある。



論說

獨立自尊の精神を養え

もいすべきものに阻害されて、澤諭吉は、"学校が取締りにいるといつてよいであろう。力を入れるならば学校は亡くなる"と述べた。

郷土部は皮切りに頃の研究を親切にしかもともにする
行なわれた文化のみ難い科学を興味的に説明して
それをなぜ木造部展覧会の最後を
やむを得ないが如きのものとして
おなじく、物語部展が去る
る、改築決定と一月十八・十九・二
八二千圓の寄附現在の社
の物理実験室に於けられた。近頃
ら云つて二千円で開かれた。近頃
して軽いものの中学校から
しかしこの金の研究作品の出品も
食の僅か三分の一であつて、天文氣象
に過ぎないので電気の各部門特
に音と光に関する
生徒間の関心も興味深い實績が行
われ極めて多形な
ものであつた。各
部門の説明者も日

卷之三

見張る現代科學の 物理部展開

（二）
某君の話「木造でも鉄筋でも良い。一日も早く勉強のしやすいものをつくりたい。最もらしい建築方法でいいれば木造でも決して悪くはない。僕は一日も早く、この年の山は女子校舎が出来る事を望むもの」の「コゼット」と及び本校用印刷株式会社那村印鑄所の新製用印が頭須印と並んで、新井利任社長の名前とともに記載されている。

卷之三

美術家といふ者がとくに社會に於ける立場を問題にするのである。これは必ずしも、そこにはこれらを是正し又埋めたまに玉を紹介する意味で美術家がこの進歩主義的大潮流に對する立場を問うたものである。この程文部省の後援で開かれた(十二月十五日迄上野公園)美術館は、我校の藝術部による點出品等、其の如く語つた、その感想を乞う。

岩永君大潮屢入選

儀で東大教授尾高周氏は「國際情勢とヨーロッパ」に關する講演を解説した。されば「ヨーロッパの構築」は、實業界と民間界の國際情勢では、必ずなるを約二時間半に亘り豊富な象論で、はすまされなくして、この時我々の生活知識と一モダスな語法についた。この時、我々の生活知識と一モダスな語法についた。この時、我々の生活知識と一モダスな語法についた。

件 一 う ら ら の い 件

書 投 學 生 ら し く



高麗のペザー会場で、「女のす
る展覧會だから」と嘲る
学生を見た。色々部活動の
關係で女子と交際を持つ場
合があるだろうが、そりや
う時は對等の立場で話をそ
う時にか／＼油をつけは
て髪にとか／＼(それが女性にせ
て對象としたし行為でないにせ
ば)通話するがあるから
こそ高校生の長髪はとやか
くいわねるのである。長髪
をいためにアライドをもつ我々高校
生はすべての場合金の入
る他の人の達理解ある事
を頂き部員一同感謝してお
ります。(演劇部)

考える人



お菓子は
力メヤ

各國ミシン販賣修理
庭用
農業用
業用 小泉ミシン商会
川越市松江町四九〇
電話川越七二二三

手軽な金融
楽しい貯蓄
日本無盡
川越市山吉前

セイ療人を

《起向校新間》

發行所
縣立川越高等学校
新聞部
發行責任者
部長須大祐弘
關口
印刷所
川越印刷株式會社

投書

反省を求む
を望む。(二〇九)

高校授業料値上

—

前へ
パン
中野雁

生徒會長 東 敏 雄

しては、室内で行つてゐる様には、「いかなる者もみとめ」ところである。しかし、ある

に悩まされています。最初は二階で大工さんが仕事をしてくるのかと迷つて定かに海田 海田の興味ある仕事の数々そればがりでなくラ合せて天氣の解説を

(二十一日 読賣紙) ある。おに。眞田になるときも眞剣になつて勉強すべきだ。ワーハー

休 直

前途に希望を持つ

卷之三

論說

豫餞會雜感

近代オリシピック(續)

松 杰 利 雄

中華書局影印

——且モナコレシタ一世 体の筋組だけに止まぬか
の如令に依つてその跡を紀 寶當時英國の強大を招來した
つてから英に一千五百有余 道徳的訓練の發揚の爲め日々
年オーリビアの歴史は君と ことにこの間に開拓した度に今日
して人の記憶から忘れかけ はこの間に開拓した度に今日
られた所、十九世紀の末フ 一月を豊好するに至る
ラムスの死後、年として豪華や無益の娛樂
ド・ターベルラン男爵が少 から我ががさせ引くことは
年代に最も頗る精神的な 民に説教とした氣分を植
ショットを交えたのは、日 づけるものであると考え
国ノロシャンとの間に生じた こゝに於てク男は英國國王
宿泊する事務を専門とするが、の如に威儀に布衣をして
ク男がこの母國の西落を身 ブラウゼがフランスに移
をもつて越過した甘利バリ 国民をして不屈不倒明

(二十日放送稿)
眞面目になるとさは眞面目になつて勉強すべきだ。ワ
豫餞會に寄せて

休 直

（本）
ビタリと重つた唇の喜びは、他の人は分らぬ百葉箱でもある。今度は、出来、黙場も講堂の雨に出で、うな不名聲を口の端みとし、これを喜んでいたが、見聞も可能となり、勝手に力任せも一層必要なのである。どうかお頼りする。

(二十日放送稿)
眞面目になるとさは眞面目になつて勉強すべきだ。ワ
豫餞會に寄せて

休 直

豫餞會開かる

逸品「白浪五人男」

谷川岳を滑る

「白浪五人男」の著者、谷川岳は、北海道で雪上競技として人気がある。谷川岳は、北海道で雪上競技として人気がある。谷川岳は、北海道で雪上競技として人気がある。

化

茂木村

映画

文

カット

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

文

論 誌

（1）

（2）

（3）

（4）

（5）

（6）

（7）

（8）

（9）

（10）

（11）

（12）

（13）

（14）

（15）

（16）

（17）

（18）

（19）

（20）

（21）

（22）

（23）

（24）

（25）

（26）

（27）

（28）

（29）

（30）

（31）

（32）

（33）

（34）

（35）

（36）

（37）

（38）

（39）

（40）

（41）

（42）

（43）

（44）

（45）

（46）

（47）

（48）

（49）

（50）

（51）

（52）

（53）

（54）

（55）

（56）

（57）

（58）

（59）

（60）

（61）

（62）

（63）

（64）

（65）

（66）

（67）

（68）

（69）

（70）

（71）

（72）

（73）

（74）

（75）

（76）

（77）

（78）

（79）

（80）

（81）

（82）

（83）

（84）

（85）

（86）

（87）

（88）

（89）

（90）

（91）

（92）

（93）

（94）

（95）

（96）

（97）

（98）

（99）

（100）

（101）

（102）

（103）

（104）

（105）

（106）

（107）

（108）

（109）

（110）

（111）

（112）

（113）

（114）

（115）

（116）

（117）

（118）

（119）

（120）

（121）

（122）

（123）

（124）

（125）

（126）

（127）

（128）

（129）

（130）

（131）

（132）

（133）

（134）

（135）

（136）

（137）

（138）

（139）

（140）

（141）

（142）

（143）

（144）

（145）

（146）

（147）

（148）

（149）

（150）

（151）

（152）

（153）

（154）

（155）

（156）

（157）

（158）

（159）

（160）

（161）

（162）

（163）

（164）

（165）

（166）

（167）

（168）

（169）

（170）

（171）

（172）

（173）

（174）

（175）

（176）

（177）

（178）

（179）

（180）

（181）

（182）

（183）

（184）

（185）

（186）

（187）

（188）

（189）

（190）

（191）

（192）

（193）

（194）

（195）

（196）

（197）

（198）

（199）

（200）

（201）

（202）

（203）

（204）

（205）

（206）

（207）

（208）

（209）

（210）

（211）

（212）

（213）

（214）

（215）

（216）

（217）

（218）

（219）

（220）

（221）

（222）

（223）

（224）

（225）

（226）

（227）

（228）

（229）

（220）

（221）

（222）

（223）

（224）

（225）

（226）

（227）

（228）

（229）

（220）

（221）

（222）

（223）

（224）

（225）

（226）

（227）

（228）

（229）

（220）

（221）

（222）

（223）

（224）

（225）

（226）

（227）

（228）

（229）

（220）

（221）

（222）

（223）

（224）

（225）

（226）

（227）

（228）

（229）

（220）

（221）

（222）

（223）

（224）

（225）

（226）

（227）

（228）

（229）

（220）

（221）

（222）

（223）

（224）

（225）

（226）

（227）

（228）

（229）

（220）

（221）

（222）

（223）

（224）

（225）

（226）

（227）

（228）

（229）

（220）

（221）

（222）

（223）

（224）

（225）

（226）

（227）

（228）

（229）

（220）

（221）

（222）

（223）

（224）

（225）

（226）

（227）

（228）

（229）

（220）

（221）

平和への願い

アンケード「再軍備」

多い再軍備反対

一般に論旨ひんじやく

生徒

教員

生徒

世界連邦の建設

再軍備に賛成

山崎善助商店

八木時計店

各学校用

中野バン店

そこはかとなく

牧野統

再軍備は世界を偽る

職員

生徒

教員

臨時異動決る

八月十六日に發令する



荒井校長熊高へ榮轉

後任には渡邊秋高校長

離任式

吟聲に教訓託して 四年の勞苦へ感謝の拍手

荒井先生が贈つて
四年の教訓を託す
四年の勞苦へ感謝の拍手



受験は人生への一台

荒井先生が贈つて
四年の教訓を託す
四年の勞苦へ感謝の拍手



今年は十月十日

一

秋空大運動會

二

相行車予選

三

相行車予選

四

相行車予選

五

相行車予選

六

相行車予選

七

相行車予選

八

相行車予選

九

相行車予選

十

相行車予選

十一

相行車予選

十二

相行車予選

十三

相行車予選

十四

相行車予選

十五

相行車予選

十六

相行車予選

十七

相行車予選

十八

相行車予選

十九

相行車予選

二十

相行車予選

二十一

相行車予選

二十二

相行車予選

二十三

相行車予選

二十四

相行車予選

二十五

相行車予選

二十六

相行車予選

二十七

相行車予選

二十八

相行車予選

二十九

相行車予選

三十

相行車予選

三十一

相行車予選

三十二

相行車予選

三十三

相行車予選

三十四

相行車予選

三十五

相行車予選

三十六

相行車予選

三十七

相行車予選

三十八

相行車予選

三十九

相行車予選

四十

相行車予選

四十一

相行車予選

四十二

相行車予選

四十三

相行車予選

四十四

相行車予選

四十五

相行車予選

四十六

相行車予選

四十七

相行車予選

四十八

相行車予選

四十九

相行車予選

五十

相行車予選

五十一

相行車予選

五十二

相行車予選

五十三

相行車予選

五十四

相行車予選

五十五

相行車予選

五十六

相行車予選

五十七

相行車予選

五十八

相行車予選

五十九

相行車予選

六十

相行車予選

川 越

第一關門進適終る

映画聖ショパン上映

展覽に九教室開放

《《《
越高校新聞
第47号
西立川高等学校
発行責任者
松本 伸一郎
監修
時計は
キンカ子

卷之三

卷之三

時計・指輪
カニヤ支店
川越駅前通り

タツの御用は
早川鞞店へ

11

カステラ 明 堂
川越市新田町

デンジキ 部品卸販賣

吉 福岡無線

川越市中央通角
電 3 6 2

卷之三

国体観戦記



精銳數千に埋まる サブトラック

新・人間書

上 明治書院

各人の立場を踏まえ、その立場から見えてくる「國體」の現状が、この連載で明らかにされる。第一回は、主に「サブトラック」（サブカルチャー）について述べる。サブカルチャーは、主に若者層で見られる文化や嗜好の総称で、その特徴として、個性重視、反体制的、反社会的、反文化的などがあげられる。連載は、このサブカルチャーの現状と、それに対する社会的評価や対応策などを議論する構成となる。

川越高校新聞

「おしゃか訪問記」

一小
泉 功一

カット 高木茂夫



連載は、主に「サブトラック」（サブカルチャー）について述べる。サブカルチャーは、主に若者層で見られる文化や嗜好の総称で、その特徴として、個性重視、反体制的、反社会的、反文化的などがあげられる。連載は、このサブカルチャーの現状と、それに対する社会的評価や対応策などを議論する構成となる。

決勝進出十四年ぶり

島野健投全試合投げ通す

新・人間書

上 明治書院

</div

新入生を迎う



校長 渡邊正紀



川越高級学校新聞部
県立川越高等学校
佐山

でなく、更に進んで創り上げるに
意を以て積極することを、諸君に
留んで止まない。

感概無量の面持

第六回卒業式

（6月10日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月11日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月12日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月13日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月14日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月15日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月16日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月17日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月18日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月19日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月20日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月21日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

した。

おおぞら者の名前は次の通り

とある。

校説の筆頭のひとときを差し

た。

那須先生の氏名を読み上げるに

つづいて起立、校歌より卒業歌が

流れた。

卒業生君に卒業証書が手渡され

た。

校説が行なわれ、懇親

会が開けられた。

由来の歌が聞かれて、

喜びがこみこみ

とあがめられた。

最後に「開拓の恩典を惜

かせぬ」といふ歌が

歌われた。

（6月22日）

講堂で十時半に行われた。

式は無事に終了

第九回 國体に参加して

盛り上る庶民的雰囲気



(1)

川越高校

1954年11月17日

文化祭例年に較べ低調

開幕の祝辭

三十

年

三

月

廿

日

午後

七

時

三

時

四

時

五

時

六

時

七

時

八

時

九

時

十

時

十一

時

十二

時

十三

時

十四

時

十五

時

十六

時

十七

時

十八

時

十九

時

二十

時

二十一

時

二十二

時

二十三

時

二十四

時

二十五

時

二十六

時

二十七

時

二十八

時

二十九

時

三十

時

三十一

時

三十二

時

三十三

時

三十四

時

三十五

時

三十六

時

三十七

時

三十八

時

三十九

時

四十

川越市内県伝松山嵐藏武二越二会



三Eの優勝

日覚ましい一年の進出

柳川寫眞店
川越市江戸町三

寫眞の御用命は

学生の特権

校長渡邊正紀



論説

予競合に望む

堀川高生

らしく品々を

ある

三十年度

生徒会役員決定
会長牛窪副会長桑田落合君



カルツアイス特約店
信栄堂眼鏡店
TEL 八〇七
川越市鶴川町

選舉を頼みて
聞く態度を養え

小川越市中央通り
大澤靴店

★電話一一三三三番

会長牛窪副会長桑田落合君



牛窪一省
桑田落合君
落合君

審査員も決定

貴井、大内君ら六名

正木原君、大内君、貴井君、西村君、大内君、貴井君

豫算作成に連日活躍

校友会總務充實した活動を期待



貴井、大内君ら六名

卒業式挙行さる

予饗会

行わる

予饗会

行はる

</



時評

白色白光

近藤鉄城

映画評

A STAR IS BORN

芸の世界を描く

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

—

文化祭開催さる

近年になつた大盛況

無限の瞳、反響呼ぶ

第八回

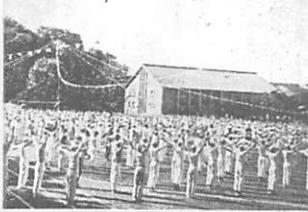
第三回 校内駅伝競走予定発表



秋季運動会行わる

総合て三C優勝

秋の運動会は、例年より盛況で、校内駅伝競走も予定されています。また、武藏嵐山往復の駅伝競走も予定されています。



本年度運動会を省りみて

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

</div

生徒会役員選挙行わる

一月十九日

△生徒会長に当選して△

藤倉忠明君



会長に藤倉忠明君
(2C) 藤倉君
(1A)

副会長は西川
(2C) 西川君
(1A)

「起高校新聞」

カーブル・スクールズ特約店
信榮堂眼鏡店
川越市鶴川座前
TEL 80-07

第三回校内騒動大会

優勝は三一C

各学年平均された実力

第三回校内騒動大会は、各学年平均された実力を競うもので、各学年ともに、三一Cが優勝した。各学年の成績は、三一C、二二B、二二A、二二C、二二D、二二E、二二F、二二G、二二H、二二I、二二J、二二K、二二L、二二M、二二N、二二O、二二P、二二Q、二二R、二二S、二二T、二二U、二二V、二二W、二二X、二二Y、二二Z。



走る選手たち

部告

投票箱設置のお知らせ

投票

箱

設置

お

し

ら

れ

る

よ

う

な

い

う

な

う

な

う

な

う

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

な

運動部本年壁頭を飾る大活躍

東松山一堂々連続優勝 奥武藏大会新て二位

解 傳

全勝優勝を遂ぐ

西地区冬季リーグ

川高篠陸夫

バスケット

品川第一位

卓球

競輪

競馬

ゴルフ

テニス

水泳

陸上

柔道

剣道

拳击

バドミントン

スキー

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バドミントン

卓球

野球

サッカー

ラグビー

ハンドボール

ボクシング

バドミントン

テニス

ゴルフ

競輪

競馬

柔道

剣道

拳击

バ

県民体育大会開催する

陸上競技総合で一位 金子棒高で3点

42

新人戦七連勝を逃 記録会は五種目優勝

(進学体験記)

広く浅い勉強を
最低点は六割

教育大学 大木達夫

文

化

部

運

球

道

水

球

排

球

ラ

ン

タ

シ

ヤ

ニ

カ

ル

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

ト

ス

